

トー調整

必・トー調整

トー調整・ハンドルズレ修正の近道

非常に多いお悩みでハンドルに直接関係がありますので例としてご説明いたしますので参考としてください。
本来は説明書通りに測定・調整を進めるべきなのですが少し近道と言うか手抜きをして簡単に調整してみましょう。

《症状・例》直進時にハンドルが左に傾いています。※逆の症状の場合は逆の解釈で進めてください。

この症状の多くは車が右に走ろうとしているからハンドルが左に傾いています。
ハンドルの位置を変えていないのにハンドルが傾いている場合は確実に狂っています。
(ハンドルの位置を変えてハンドル真っ直ぐにすることは絶対にしてはいけません。)
でも～ハンドルは少し傾いているけれど直進はしているよと、おっしゃられる方もいらっしゃいます。
これはハンドルの遊びの範囲に入るレベルで狂っているから直進はするけれどハンドルが少し傾いています。
キャンバーを触るとトーが狂いますのでキャンバーが左右同じであるか、キャンバー調整後にトーに入ります。

現状、直進時にハンドルが左に傾いているということは右に走ろうとするから左にハンドルを切って直進させている状態になっています。

ここで間違いやすいのは左にハンドルが向いているから車は左に走ろうとしていると、逆を考えてしまうことです。
ここを間違えると逆に調整をすすめてしまいますので、いつまで調整しても悪化するばかりです。

それから、ここでもう一つポイントがあります。それはハンドルの遊びです。

車のハンドルには遊びがあるために極度に狂っている場合にはハッキリとわかりやすいのですが遊びの範囲くらいのレベルで狂っていると直進しますので分かりにくい上、運転しながら考えていると、ついつい逆を考えてしまいます。

たとえ遊びの範囲に入っているレベルでも左に傾いているということは右に走ろうとしていることを意識してください。

ではトーが狂っているのは分かっているのですが左右のどちらが？どう狂っているのか？

タイロッドの調整部分が左右各々、一箇所ずつの合計二箇所です。ここでもポイントがあります。

左右を同時に触ると二箇所もありますので余計に難しくなります。どちらか一箇所にしましょう。

では、どちらを触りましょうか？(現状、右に走ろうとしているのですから方向的には左に走る方向にもっていきます。)

その場合、下記の二通りの調整パターンがあります。

1. 左のタイロッドを触る場合はタイロッドを縮めて左のタイヤをさらに左に向けてやる。
2. 右のタイロッドを触る場合にはタイロッドを伸ばして右タイヤを左に向けてやる。

ここで現状をトーゲージで測定してトーアウトならイン方向に変化していく2番を選択します。

トーインならアウト方向の1番

これが本来の選択方法なのですが近道しますので、まだゲージを使わずイン方向になる2番を選択します。

それはアウト方向になると不安定になりますのでインの安定方向を選択します。(テスト走行時に安定するから)

2番を選択したので右のタイロッドを調整してタイヤを左に少しずつ向けていきます。(左はまだ触りません)

少しずつタイロッドを伸ばしてテスト走行を繰り返していくと段々とハンドルが真っ直ぐ、真っ直ぐ走行の状態に近づいていき最後には必ずハンドル真っ直ぐ、真っ直ぐ走行の状態がきます。

(注・一度に大きく調整すると真っ直ぐ状態を飛び越えてしまう場合がありますので必ず少しずつ調整してください。)

この時点で左右対称になっていますがトータルトーはインなのかアウトなのかは分かりません。

ここで、やっとトーゲージ測定をします。

運良くトーゼロ(イン0～5ミリくらい)ならOK! トータルトーがイン過ぎたら左右同じ分量ずつ縮めて、、、トータルトーがアウトなら左右同じ分量ずつ伸ばしてイン方向に進めていき目標値、もしくはゼロになるように調整を進めていきます。

(必要であれば自分の走りに合った自分好みに!)

※同じ分量ずつ調整というのは結構、難しいのでマスキングテープ等にマーキングしたものを利用する方法が簡単です。

説明書内に記載されておりますので参考にしてください。

必要であれば最終確認ということで糸張り方法で確認してみてください。

(場所探し)

本来は四輪水平が基本なのですが青空駐車場等しか測定場所がないんだよねとおっしゃられる方がいらっしゃいます。

水はけを考えると結構な傾斜がありますので四輪が水平なんてなかなか見つかりません。

そのような場合は左右が水平で前後は出来るだけ水平な場所を探してください。

これは車高調でもおわかりになると思いますが車高調は車高を変えてファッショニング性を変える役目もありますが

本来は前後の車高を変えて走りを変えるというのが最大のポイントです。

このことから四輪水平な場所が見つかりにくい場合には左右水平で前後は出来るだけ水平な場所を探しましょう。

(もし誤差があっても左右が同じなのでOK!)